

## 平成22年度鹿児島市学校教育研究大会に係る研究実践のまとめ

鹿児島市立甲南中学校

### 1 実践研究主題

「わかる授業」の創造  
～ 指導内容の精選及び指導法の工夫・改善を進め、「確かな学力」の定着を図る ～

### 2 研究の概要

- (1) 研究仮説  
補充・発展など個に応じた学習内容や習熟の程度に応じた指導を柔軟かつ多様に導入した授業を展開すれば、生徒に「確かな学力」をつけることができるだろう。
- (2) 研究の視点
  - ア 基本的な学習・生活習慣の徹底を図るとともに、生徒が将来にわたって心に財産をつくる具体的な生徒指導を実践する。
  - イ 子どもの実態を踏まえた教師による行き届いた計画的な指導をすることで、生徒が五感をフル活用して意欲的に活動する「わかる授業」を展開し、生徒一人一人の学力の向上を図る。特に、「読む・書く・話す・聞く・考える・発表する」などの言語活動を重視した指導の充実を図る。
  - ウ 将来の生き方についての自覚を深めるとともに、自己を生かす能力を育成することによって、生徒一人一人が主体的な進路選択ができるように、発達段階に応じた進路指導と系統的な進路指導を推進する。

### 3 検証（実践）

研究の視点	実際の取組	成果
ア 基本的学習習慣・生活習慣の確立	① 2分前着席・1分間黙想の徹底 ② 集団行動の確認・徹底 ③ ショートテストの実施と宿題の提出の工夫	① 本部，学習部が呼びかけ，生徒は授業開始2分前から着席し，1分間黙想をして待っている。そのため，落ち着いた中で授業のスタートができています。 ② 無言整列・無言集合を徹底することで，集会時における集合の状態が良くなり，話を聞く態度も良くなっている。 ③ ショートテストで前時の振り返りを行い，毎日の宿題（家庭学習）の点検・確認を実施することで，家庭学習が徐々に習慣化されてきた。
イ 計画的な学習指導を通した生徒一人一人における学力向上	① ICT機器での教材提示 ② 単元ごとの自己評価ワークシート，定期テストなどを通して生徒の理解が十分でない部分を見出し，個別に指導を行うなどして，弱点分野の克服に努める。 ③ 数学科と英語科において，習熟の程度に応じた少人数学習に取り組んでいる。 ④ 他教科との関連付け ⑤ 授業外での個別指導の充実 ・昼休みや放課後に個別に呼んで指導したり，質問を受けたりする。 ・課題の添削時にアドバイスなどのコメントを記入する。 ⑥ 生徒にとって身近な場面における必然性のある学習目標の提示 ・行事に関する問題を提示する。 ・郷土のことについての学習(導入)課題などを与える。	① 板書の時間短縮につながり，生徒一人一人の学習支援をする時間が増えた。 ② 理解するまで，個別指導（追試という形）を実施した結果，生徒がそれぞれ努力する姿勢が見えてきた。 ③ 発表や質問をする機会が増え，学習内容の定着度が高まった。 ④ 「あー，だからか…」と声をよく聞くようになった。 ⑤ 昼休みや放課後に個別指導を行うことで，次の授業のときの生徒の姿が生き生きとしてきた。 ⑥ 導入を工夫することで，生徒の課題意識も高まってきた。
ウ 生徒一人一人が主体的な進路選択を図るための進路指導	① 様々な場面や方法（掲示や口頭説明）で情報を共有できるように工夫し，生徒自身が選択できるように指導している。 ・進路コーナーを設けて掲示する。 ・高校説明会や体験入学の案内。 ② 高校の可否だけにとらわれず，将来を見通した進路選択ができるように指導している。 ・進路通信などで受験の考え方や進路設計の考え方を紹介する。 ・三者相談の実施 ③ 上級学校調べなどを通して，将来の生き方について考えさせる。	① 様々な視点で進路を考えるようになり，進んで高校の体験入学などにも参加し，意欲的に「生き方」を考える姿が見えるようになってきた。 ② 進学について，教員と保護者の認識を深めることができた。 ③ 進学についての不安を少し取り除くことができた。

## 4 研究のまとめ（成果と課題）

### (1) 国語科

#### ① 成果

##### (ア) ペア学習の取組

- 音読・暗唱・話し合い・解答の確認などの学習活動をペアで行った。4人～6人のグループよりも、全員が学習に参加することによって、授業の雰囲気明るく積極的にになり、個々の意欲の向上につながった。また、ペアで確認した後、挙手による発表も増えた。

##### (イ) 討論会から意見文・意見発表会へ

- 身近なテーマを設定し、討論会を行った。机、イスを後方にひき、教室前方に動けるスペースを作り、「ペットに洋服を着せることはよいことである。」などのテーマについて自分の立場を決め、意見をやりとりし、再度自分の立場を決めせるという簡単な手順で行った。

次に、「命」にかかわる深く考えさせるテーマを設定し、ワークシートに書く時間を設定した後、討論会を行い、原稿用紙に意見文として書かせ、発表会を行った。

この話す・書く活動によって、何を書いてよいかわからない生徒も「テーマ」について真剣に考え、友達の意見を聞くことによって書く材料も増え、書くことへの抵抗感が少なくなったようである。また、意見の内容も深まり、友達の発表を真剣に聞いていた。

#### ② 課題

##### (ア) 書画カメラを用いた授業の効率化

- 広幅用紙に書くことなく、自分が調べたことを表や図、絵を用いて発表させていきたい。また、長文読解の解説や文法の解説に用い、より多くの問題に取り組みせていきたい。

### (2) 社会科

#### ① 成果

##### (ア) 基本的な学習・生活習慣の徹底

- 2分前着席及び1分間黙想の徹底を心がけ、終始の礼がしっかりできてきているので、整然とした授業開始ができるようになってきている。

- 積極的に発言する雰囲気ができている。

##### (イ) 言語活動を重視した指導

- 間違いを恐れず、快く発表する姿勢ができている。

- ICT機器を活用して資料を提示することで、生徒の興味を高めながら多くの意見を聞くことができた。

##### (ウ) 発達段階に応じた進路指導と系統的な進路指導の推進

- 地理、歴史、公民的分野のそれぞれの分野において、日本や世界の課題を理解することで、将来の生き方を考えさせることができた。

#### ② 課題

##### (ア) 言語活動の充実と基礎・基本の定着

- 言語活動を充実させながら、基礎・基本をどのように定着させていくか。

##### (イ) ICT機器の活用

- 資料の精選、資料提示の際のフォントの大きさ、授業の展開での資料提示のタイミング等の検討が必要である。

##### (ウ) 家庭学習の習慣化

- 興味のある生徒の学習に対する姿勢とそうでない生徒との格差が生じてきている。

### (3) 数学科

#### ① 成果

##### (ア) 主体的な学習習慣の確立と基礎的・基本的な学習事項定着のための補充学習

- 1年生については、家庭学習用としてノートをも1冊準備させ、1学期間は1日1枚ずつ基本的な内容の学習プリントを配布し、登校後すぐに提出させ添削指導を行った。間違い等があった場合はその生徒に返し、訂正をさせて改めて個別指導を行うことで、学習内容の定着を図った。また、2学期以降は、授業で学習した内容を各自でノートにまとめ、提出させるようにした。

そのため、定期テストにおける観点別の「数学的な表現・処理」と「数量・図形などについての知識・理解」の通過率推移をみても、個人差はあるが基礎的・基本的な知識や技能が定着しつつある。また、ノートをまとめる力も身に付いてきた。



生徒のノートより

- (イ) 基礎・基本の定着に向けて、県教委の出している鹿児島ベーシックを活用した冬休みの課題を作成した。また「基礎・基本」定着度調査の過去の問題にも取り組ませることで、基礎・基本の内容の定着を確認することができた。

② 課題

- (ア) 主体的な学習習慣の確立と基礎的・基本的な学習事項定着のための補充学習

- 各家庭で解答し、ノートをまとめることで学習習慣の確立を図り、基礎的・基本的学習内容の定着を図ることが目的であったが、提出を怠り、昼休みや放課後にやらなくてはならない生徒がでてしまい、完全な定着というところまで至らなかった。
- 1日で全ての生徒のノートを添削し、個別指導までする時間がない日もあり、そのような時の対応の仕方を考える必要がある。

(4) 理科

① 成果

- (ア) ICT機器の効果的活用

- 細かい手元の操作や、教科書の解説にとっても有効に利用することができた。生徒の関心も高く、興味を持って画面を見ることができ、理解を深めるのに役立った。

- (イ) 板書の時間の確保と机間巡視

- 机間巡視をこまめに行うことにより生徒の書く速度の個人差を把握しノートを作り上げる時間確保ができ、また色使いなどをアドバイスすることにより後から見直すときに印象に残るノートをとらせることができた。

- (ウ) 小テストの実施

- 授業始めに前時の内容を確認する小テストを行うことで、生徒が学習したことを振り返り確認する習慣が付き、ノートのとり方を工夫するなどの姿勢が見られるようになった。

② 課題

- (ア) 理解定着の深化

- きちんとノートを取り授業も真剣に受けることはできるが、テストがうまく解けないまたは実験の手順などをきちんと把握することができない生徒がいる。ICT機器の利用により目で見ただけの情報は直ちに伝わるが、それがすぐに本人の知識や行動に結びつかないようである。繰り返し取り組むことにより深化補充して行かなくてはならないと考える。

(5) 英語科

① 成果

- (ア) ICT機器の活用

- 家族や友達を紹介する場面において、実際に生徒が準備した写真を書画カメラに映し出して発表に取り組ませた(写真1)。発表者は顔を上げてスクリーンに映し出される写真を指しながら発表ができ、また、聞き手も拡大された写真に注目し、紹介される人物について興味をもって聞こうとする姿が見られた。



写真1 (友達について紹介している場面)

(6) 音楽科

① 成果

(ア) 授業中の学習のしつけについて

- 教室移動を早めにし、1分前黙想を徹底させた。
- 「場を清め、時を守り、礼を正す」を授業の初めと終わりですっきりとさせた。
- 本時の目標を明確にして授業に臨んだ。
- 落書きをしたり、消しゴムのかす等を散らしたりしないように注意した。
- 忘れ物をしないように次時の予告を行った。(教科連絡の徹底)

(イ) 学習活動や学習形態について

- 楽しい学習ができるような雰囲気をつくった。
- 表現(歌唱)活動や鑑賞活動などは、お互いによく聴きあう態度を大切にするように心がけた。
- リコーダーなど楽器の演奏は、基礎・基本的なことをきちんと押さえてから授業を展開した。
- ノートや愛唱歌集「ともしび」、合唱曲集などの活用を工夫した。

② 課題

(ア) 授業における興味・関心を高める工夫

- 授業は元気よく大きな声で楽しく歌うことを大切にしていきたい。
- 生徒の興味のある教材等を選択し、そこから基礎・基本の定着や発展学習につなげていきたい。
- 音楽に興味・関心のある生徒には、いろいろなことにチャレンジさせたい。

(7) 美術科

① 成果

(ア) 基本的学習習慣・生活習慣の確立

- 班ごとに責任を持って後片付けをさせることにより、仲間との協力や信頼関係を深めることができた。

(イ) 計画的な学習指導を通した生徒一人一人における学力向上

- ICT機器を活用することで、鑑賞の授業で映像作品を取り入れることができ、授業内容を深めることが出来た。
- 作業工程を分け、ワークシートを使い個別指導を取り入れることができた。
- 授業内容の理解度を確認でき、一人一人に的確なアドバイスをすることができた。
- 鑑賞の授業で扱う作品や美術史の授業を通して、他教科と関連付けることにより理解を深めることができた。

② 課題

- ICT機器を活用する場面では、課題提示だけでなく、作業過程も具体的に提示することができればよかった。

③ 生徒の作品



2年 季節を感じさせるランプシェ



2年 モダンテクニックを使って 歌詞



3年 立体感のある平面構成  
二点透視図法を使

(8) 保健体育科

① 成果

(ア) 新体力テストにみる本校生徒の実態

- 本校生徒の体力テストの結果をみると上体起こしや反復横跳び、20mシャトルランや持久走では平均値を上回る学年がある。一方で、握力や50m走、立ち幅跳びやハンドボール投げはどの学年も平均値を下回っている。つまり持久力、敏捷性はやや平均値にあるが、筋力、瞬発力、柔軟性については非常に劣っていると思われる。

平成22年度 甲南中学校体力テスト結果

[全国の平均値より 上：○，下：▲]

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m	立ち幅跳び	ハンドボール投げ	持久走
男子	1年	▲	○	▲	○	○	▲	▲	▲	○
	2年	▲	▲	▲	○	▲	▲	▲	▲	▲
	3年	▲	○	▲	▲	○	▲	▲	▲	○
女子	1年	▲	▲	▲	▲	○	▲	▲	▲	▲
	2年	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	3年	▲	○	▲	○	○	▲	▲	▲	▲

② 課題

(ア) 新体力テストの結果より

- 新体力テストで明らかになった筋力、瞬発力、柔軟性を高める運動を、各領域で工夫しながら取り組む。

(イ) 授業の展開

- 中学生期は持久力を高めるのに効果的な時期なので、引き続き授業での1000mの測定や、運動量の確保を考慮した授業展開を心がけていく。

(ウ) 個に応じた指導

- 個人体力カルテを作成し、個に応じた運動の取組を行う。

③ 参考資料

# 甲南中体操

## 1 ランニング（体育館5週，校庭2周）

## 2 ストレッチ（各動作15秒）

①全身のリラクゼーション



②長座体前屈



③大腿四頭筋(左右)



④大腿四頭筋(両足)



⑤腰のねじり(左右)



⑥肩入れ(左右)



⑦伸脚(左右)



⑧アキレス腱(左右)



⑨股裂き(左右)



⑩三角筋(左右)



⑪肩と体側(左右)



⑫全身の伸び



## 3 補強運動（各運動10回）

①腕立て伏せ



②腹筋



③ジャンプ飛び越し



④馬跳び



⑤スキップ



(9) 技術科

① 成果

- (ア) 基本的学習習慣・生活習慣の確立
  - 学習部の呼びかけにより、授業開始チャイムが鳴るときには黙想して待っていた。
- (イ) 計画的な学習指導を通した生徒一人一人における学力向上
  - 書画カメラを用いて、細かな製作の様子（電子部品のはんだづけ）をテレビに拡大して映し出すことで、生徒の製作方法の理解が深まった。
- (ウ) 生徒一人一人が主体的な進路選択を図るための進路指導
  - 技能五輪のDVDから、22歳以下の青年たちが自分の仕事に目標を持って励む姿を見た。ものづくりに関わる高等学校、高等専門学校を紹介した。

② 課題

- (ア) 基本的学習習慣・生活習慣の確立
  - 生徒の集中力を高めるために、必要最低限の会話だけの無言製作を徹底させたい。
- (イ) 計画的な学習指導を通した生徒一人一人における学力向上
  - 時間内に完成できるように、個別指導を工夫したい。
- (ウ) 生徒一人一人が主体的な進路選択を図るための進路指導
  - 作品を製作していく中で、ものづくりに関わる職業を紹介していきたい。

(10) 家庭科

① 成果

- (ア) 2分前着席，1分前黙想を本部・学習部を中心に呼びかけて徹底することができた。
- (イ) ロールプレイングや体験的活動を積極的に取り入れ，生徒に興味関心を持たせ，課題に取り組みさせることができた。
- (ウ) グループ活動を取り入れ，授業への積極的参加が苦手な生徒も授業に参加しやすい雰囲気をつくることができた。
- (エ) 他教科や進路学習との関連も意識しながら授業を組み立てることができた。

② 成果

- (ア) 移動教室の場合に授業開始が遅れることがあった。教科係等を中心にスムーズな移動に努めさせたい。
- (イ) ICT機器の利用について，準備や操作に時間がかかり有効な利用ができなかった。活用の工夫改善を行い，有効な利用に努めたい。
- (ウ) 作業時間が短く，実習では時間内に終わらず，昼休みや放課後等を利用することも多かった。また，後片付けが不十分なことも多々あったので時間配分や授業内容の検討を行いたい。

③ 授業の様子



幼児に生活習慣を形成させるためのロールプレイング



幼稚園訪問を行った際の様子

④ 参考資料 (家庭科学習指導案)

(6) 展開

過程	学習の流れ	時間	形態	学習内容	指導上の留意点	教具	
導入	はじめ	15分	個	1 幼児が生活習慣の形成において苦しみ様子の具体例を視聴させ、生活習慣形成の様子を想起する。	1 本時の学習内容を知らせる。幼児がどのような点に苦戦しているかを考えさせる。幼児頃の自分はどうかだったか、考えさせる。	ビデオ	
	2 学習課題の設定			2 本時の学習課題を設定する。			
展開	3 基本的生活習慣にはどのようなものがあるかを確認する	15分	班	3 基本的生活習慣とは何かを確認する。	3 生徒の生活とも関連させながら考えさせる。	押絵 ワークシート 教科書	
	4 わかったか			補 5			
	6 幼児に生活習慣を形成させるための手立てを考える	15分	班	6 幼児に生活習慣を形成させるためには、どのように関わるとよいかを班でロールプレイングの台本をつくり考える。	6 班での活動がスムーズに行えるよう机間指導を行う。	ワークシート	
	7 できたか			補 8	7 考えの浮かばない班には、自分の体験を振り返りながら考えさせる。		
	9 発表する	10分	全	9 班で考えた、幼児との関わり方を全体の前で発表する。	9 班の意見を全体で共有できるように、声の大きさなどに注意させる。	ワークシート	
	10 わかったか			補 11	10 他の班の意見からよい視点は取り入れさせる。		
	12 ロールプレイングを通して、幼児に生活習慣を身につけさせるための手立てを考える	5分	班・全	12 ロールプレイングを通して考えたこと、感じたことをワークシートにまとめる。 広幅用紙を用いて、生活習慣を身につけさせるための関わり方を知る。	12 幼児の生活習慣をよりよく形成させるためにはどのようなにかかわればよいかという視点を持たせる。	ワークシート 広幅用紙	
	13 わかったか			補 14			
	結末	15 将来の子どもへの手紙を書く	5分	全・個	15 将来の自分の子どもにあてて、手紙を書く。		ビデオ 教科書
		16 発表する			16 手紙を発表する。	17 残り時間に余裕のあるときは幼児への関わり方の手本となるビデオを視聴させる。自分たちの考えた関わり方との違いや参考にできる点等に注目させる。 愛情を持って接することの必要性や、個人差があることをおさえる。	
17 本時のまとめ				17 時間を余裕があれば幼児とお母さんの生活習慣に関する、やりとりのビデオを視聴し、本物の実際の関わりを確認する。			
18 次時の予告を聞く				18 次時の予告を聞く。			
おわり							

《参考資料》

I 標準学力検査分析（教科名： ）

1 教科全体の実施と考察

	5段階評定の割合					偏差値	考 察
	1	2	3	4	5		
1年生	%	%	%	%	%		
2年生	%	%	%	%	%		
3年生	%	%	%	%	%		

2 各領域の状況（通過率）

		第1部	第2部	第3部	第4部	通過率から分析した指導を要する内容
1年生	領域					
	本校					
	全国					
2年生	領域					
	本校					
	全国					
3年生	領域					
	本校					
	全国					

3 小問分析

(1) 全国通過率との比較（全国通過率を下回っている問題数 / 領域問題数）

部	第1部	第2部	第3部	第4部	全国通過率との差が大きな小問の通過率	
領域						
1年生	/	/	/	/	(全国)	(本校)
2年生	/	/	/	/	(全国)	(本校)
3年生	/	/	/	/	(全国)	(本校)

## Ⅱ 平成22年度「基礎・基本」定着度調査の結果

第 学年 教科

### 1 領域及び観点ごとの通過率

領域	通過率	観点	通過率	総合通過率
	%		%	%
	%		%	
	%		%	
	%		%	

### 2 本校の通過率が低かった問題

設問番号	通過率	無答率	問題内容	誤答傾向
	%	%		
	%	%		
	%	%		
	%	%		
	%	%		

### 3 上記2の結果を踏まえ、3学期内にすべきこと

授業で

家庭学習で